

謎の青銅器は何に使われたのか?

歴史の解明の糸口となる銅矛の再加工品が発見された



野市町西野の西野遺跡群内で、平成19年2月に弥生時代後期末(3世紀初めごろ)の竪穴住居跡から銅矛の芯の一部を再加工した棒状の青銅器が1点出土し、県立歴史民俗資料館でこの夏、公開されました。

全国で初めての発見!

青銅器とは、弥生時代に朝鮮半島から九州北部にもたらされた青銅製の道具で、主に祭祀の道具として大地に祈りをささげたり、邪気の侵入を防ぐためなどに使用されてきました。

今回発見されたのは、この青銅器の中でも弥生時代後期前半(1世紀末)に福岡県で作られた銅矛の一部が加工されたものです。片側の端に穴が開けられており磨

では、当時貴重であった青銅器が何かに使われたことが伺えます。

野市町内から 3種の青銅器

これまでに平成5年兔田八幡宮の絵画銅剣(国指定重要文化財)、平成15年北地遺跡の銅鏡破片、そして今回の青銅器と、次々に同地域内で青銅器が見つかっており、この地域に複雑な青銅器文化があったと考えられています。この青銅器が出土した西野遺跡群では



愛媛大学法文学部 吉田 広 准教授

平成16年度から19年度にかけて発掘調査が行われ、弥生時代や古墳時代の竪穴住居跡が合わせて55棟、古代の掘立柱建物の柱穴や溝など数多くが発見されました。出土した遺物は、弥生土器・土師器・須恵器と呼ばれる土器など合計で約15万6千点を数えます。また、調査地全体に弥生から平安時

代のさまざまな遺構が残っていることが確認され、当時の生活の様子が明らかになってきています。

歴史のカギを握る

このような調査から弥生時代には物部川流域で稲作を営む四季の暮らしが確立され、湿潤な低地をのぞむ台地に集落を構えていたことが分かってきました。

九州北部を中心とした銅矛分布圏と近畿中心の銅鐸分布圏。双方が混じり合うこの地域に位置する香南市。

ここで青銅器の再加工品が発見されたことは歴史をひもとく上でも、重要な鍵となるのではと今後の研究の進展に期待が集まっています。

3種の青銅器

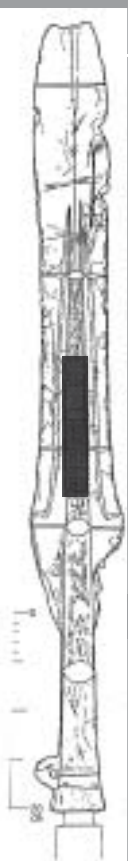
▼ 兔田八幡宮の絵画銅剣

▼ 北地遺跡の銅鏡破片



銅矛とは

青銅製の武器の一種で、やり状の刃の部分が袋状になっていて、そこに柄を差し込んで使用するもので、日本には朝鮮半島から入り、弥生時代中期ころから九州のみで生産されていたとみられており、祭祀でささげていたとされています。発見された青銅器は長さ約80cmの中広形と呼ばれる銅矛の芯の一部(図中:黒の部分)とみられています。



▼ 発見された青銅器

長さ13.8cm・幅2.2cm・厚さ1.3cm
円筒形で中が空洞になってる



香南市内の遺跡

※香南市が発掘調査した遺跡のみ掲載(旧町村分を含む)



※番号は掘った順番

- ① 十万遺跡(香我美町)
- ② 深淵遺跡(野市町)
- ③ 下分遠崎遺跡(香我美町)
- ④ 曾我遺跡(野市町)
- ⑤ 山下遺跡(野市町)
- ⑥ 拝原遺跡(香我美町)
- ⑦ 本村遺跡(野市町)
- ⑧ 深淵北遺跡(野市町)
- ⑨ 下ノ坪遺跡(野市町)
- ⑩ 上河内遺跡(香我美町)
- ⑪ 下分遠崎遺跡(香我美町)
- ⑫ 上岡遺跡(野市町)
- ⑬ 上岡北遺跡(野市町)
- ⑭ 母代寺土居屋敷遺跡(野市町)
- ⑮ 兔田柳ヶ本遺跡(野市町)
- ⑯ 曾我遺跡(野市町)
- ⑰ 北地遺跡(野市町)
- ⑱ 大東遺跡(赤岡町)
- ⑲ 寺尾遺跡(夜須町)
- ⑳ 西野遺跡群ルノ丸地区(野市町)
- ㉑ 西野遺跡群ルノ丸地区南(野市町)
- ㉒ 西野遺跡群ルノ丸地区南A(野市町)
- ㉓ 東野土居遺跡(野市町)
- ㉔ 久保田遺跡(香我美町)

青銅器・遺跡に関する問い合わせは
市教育委員会 生涯学習課 ☎57-7523